



ミニディベートの例

東野 これから「ミニディベート」を始めましょう。A―^{キアイ}について、ちがった立場からの意見を出し合って、考えを深めていきたいと思っています。発言する人は、聞いている人を意識して、根拠や例をはっきりさせて話すようにしましょう。発言を聞くときは、意見と根拠がきちんとつながっているか考えたり、自分の意見と比べたりしながら聞くようにしましょう。それでは、順番に意見をお願いします。

北原 ぼくは、利点の立場からの意見を述べます。A―にはいくつかのよいところがあると思います。

まず、A―は、人の生活をよりゆたかなものしてくれます。人間が思いつかないような食材の組み合わせをいあんして、新しい料理を生み出すことができます。実際にA―ががいあんした料理を食べさせてくれるお店もあって、そのハンバーグはお客さんになかなかのひょうばんだそうです（新聞記事のフリップを見せる）。

次に、自動車の運転についてですが、A―による自動運転が実用化されて、これから人は運転する時間を他のことに使うことができるようになります。A―のおかげで、かぎられた時間をより有効に使うことができるようになるのです。

このようにA―には、よいところがあるのです。

森本 わたしは、問題点の立場からの意見を述べます。A―との暮らしには、三つの問題点があると思います。

一つめは、A―のかつやくが人間を幸せにしているということです。わたしは前に、有名な作曲家の未完成作品をA―が引きついだという記事を読みました。その作曲家がもし生きていたら、A―が自分の作品を完成させたことを喜ぶでしょうか。なくなった作曲家の思いが大切にされないA―のかつやくは、人間を幸せにはしていないと思います。

二つめは、A―が人間の仕事をうばってしまうのではないかとということです。この資料を見てください（仕事の一覧表^{らん}を見せる）。ここにあげられた仕事は、今後人間ではなくA―がすることになるだろうと言われているものです。お店の店員さんや役所のじむ員さんなど、多くの仕事をA―がするようになっていくと、人間の仕事がどんどんなくなってしまいう心配があります。

三つめは、万が一A―がミスをした場合、だれが責任をとるのかということです。たとえA―でもぜったいにまちがわないうことはありません。そのときにだれが責任をとるのか、法律でもまだ決まっていないう聞きました。さまざまな取り決めがA―に追いついていないことは問題だと思っています。

東野 なるほど。それでは、順番に質問や反論^{らん}をしていきます。最初は問題点の立場から利点の立場への質問や反論です。お願いします。

森本 わたしの母は、休日に関自分で新しいレシピを考えて料理を作ることを楽しんでます。人間には思いつかない新しい料理をAーが考案してくれるということでしたが、人間が新しい料理を考える楽しさをうばわれてしまうと思います。本当にAーは、人間を幸せにしているといえるのでしょうか。

東野 次に利点の立場から問題点の立場への質問や反論をお願いします。

北原 なくなった作曲家の未完成作品をAーが引きついだという話がありましたが、これはあくまでもAーが作曲家のとくちょうをつかんでそれをまねしているわけであって、なくなった作曲家の新作とはいえないと思います。父が言っていたことですが、Aーがつくった作品は、あくまでもにている作風の作品として楽しめばいいのではないかと思います。

東野 それでは、おたがいに質問や反論に対して意見を言ってください。

森本 北原さんの言うとおり、作風がにている作品として楽しめばいいという意見にはなっとくしました。「○○の新作」というとらえ方ではなく、人間がAーの作品にどのように関わるか考えることが大切なのではないかと思いました。

ただ、Aーに関してまだ決まっていらない取り決めが多いということは確かに問題点だと思います。安心してAーとくらしていけるような法律が早くできるといいなと思いました。

北原 先ほど見せた記事にのっていた料理人さんの話だと（新聞記事のフリップを見せる）、Aーがいていあんしたレシピに自分の考えを加えているそうです。人間と協力して新しいものを生み出すAーは、人を幸せにしていると思います。

東野 「ミニディベート」を通して、それぞれの考えが広がりましたね。

北原さんは、反論に対して、新聞記事を引用して答えていて説得力がありました。

森本さんは、初めの考えを言う時に、「三つの問題点があると思います。」と言ってから「一つめは、」と説明していて、聞きやすかったです。また、利点や問題点をいろいろな視点から考えていたので、ディベートを通しておたがいの考えが広がってよかったと思います。

